

海外感染症流行情報(2011年5月号)

東京医科大学病院 渡航者医療センター

・海外渡航中の麻疹感染が増加

国立感染症研究所の発表によれば、2011年は国内で4月末までに184人の麻疹患者が確認されました(国立感染症研究所HP 2011-5-13)。2010年の年間患者数は455人であり、本年は増加傾向にあることがわかります。とくに4月は東京や神奈川で患者数が増加している模様です。

今年発生した患者の半数近くは20歳以上の成人で、海外渡航歴のある者が多くみられます。検出されたウイルスの遺伝子型もD4など海外由来のものが多くなっています(感染症発生動向調査週報2011年第16週)。このような状況から、今年国内で発生している麻疹患者の多くは、海外渡航中に感染した可能性が高いようです。

なお、ヨーロッパでも2011年4月までに33カ国で約6500人の麻疹患者が報告されており、これは例年より多い数です(WHO Global Alert and Response 2011-4-21)。このうちの5000人近くがフランスで発生しており、同国で昨年1年間に発生した患者数を突破する勢いになっています。またスペインでもセルビアやグラナダなどの観光地で患者数の増加が確認されています。

麻疹は発展途上国に常在するだけでなく、今年は、ヨーロッパでも流行がみられているようです。こうした流行地域に滞在する方で、麻疹の免疫がない場合は事前にワクチン接種を受けておくことが推奨されています。

・タイでのマラリア、デング熱流行状況

タイでは本年1月～3月までに約2300人のマラリア患者が確認されました(Pro MED 2011-4-22)。患者の多くはミャンマー国境や最南部で発生しています。

デング熱の患者も次第に増えており、今年は5月上旬までに全国で9000人以上が確認されています(Pro MED 2011-5-16)。患者の発生は中央部で多いようです。これからタイでは雨季となるため、デング熱患者はさらに増加することが予想されます。

・日本からの渡航者がインドで日本脳炎に感染

国立感染症研究所の感染症発生動向調査によれば、本年2月、東京で70歳代の日本脳炎患者が発生しました(感染症発生動向調査週報 2011年第8週、東京都感染症週報 2011年第11週)。感染地はインドと報告されています。

日本脳炎は中国、東南アジア、南アジアで流行しており、欧米の旅行者が滞在中に罹患するケースも時々発生しています。最近ではインドネシアのバリ島に滞在していたドイツ人女性(54歳)が、帰国後に日本脳炎を発病しました(Pro MED 2011-5-19)。日本で長年生活している者については基礎免疫があるため、海外で罹患するケースは稀と考えられてきました。今回、インドで感染した事例の詳細は不明ですが、もし日本で長年生活してきた方の罹患であれば、渡航者への日本脳炎対策に新たな予防措置が必要になるでしょう。

・ホーチミンで豚連鎖球菌感染症の患者が増加

今年になりベトナムのホーチミンで豚連鎖球菌感染症の患者が 11 名発生しています (Pro MED 2011-5-19)。

本症は豚に敗血症などをおこす病気ですが、ヒトにも感染し、発熱、髄膜炎、ショックなど重篤な症状をおこします。2005 年には中国の四川省で 215 人の患者が発生し、36 人が死亡するという流行がありました (WHO Global Alert and Response 2005-8-16)。ヒトへの感染源は豚の肉や内臓で、その経口摂取や傷口などへの接触で感染します。2005 年の中国の流行では、患者の大多数が豚の飼育や食肉加工などに従事する人たちでした。

海外で日本人渡航者が感染する可能性は低いと考えますが、豚肉は充分に加熱して食べるようにしましょう。

・チェンマイのホテルで海外旅行者の突然死が続発

タイ・チェンマイの某ホテルで今年の 1 月以降、宿泊中の外国人旅行者など 7 人が次々に死亡するという事件がおきました。一部の患者は心臓発作が疑われていますが、今のところ原因不明の突然死として扱われています。今回、ニュージーランドのメディアが行った発表によれば、ホテル内でダニ駆除のために散布された有機リン薬 (クロルピリホス) の中毒が、死因になっている可能性があるそうです (Pro MED 2011-5-12)。現在、地元衛生当局が調査を行っています。